

# 岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数 / 217名 (2023.12.9 現在)

編 集 発 行 / 「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座 / 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) http://hospice.sakura.ne.jp/

No. 73

2024年1月

## 岩手県がん対策推進計画及び保健医療計画 (がんの医療体制)の素案について

昨年11月16日に開催された第33回岩手県がん対策推進協議会において、次期岩手県がん対策推進計画及び保健医療計画(がんの医療体制)の素案が岩手県保健福祉部より提案されました。

その中で同部より、岩手県のがん医療体制の圏域について、従来の県内9医療圏から5医療圏に再編するという提案があり、県のスケジュール

としては、翌月12月上旬の県議会にこの素案を提出し、同月中旬～2024年1月中旬までの2か月足らずでパブリックコメントを行い、その実施結果を踏まえ2月上旬には計画の最終案を決定してすぐに県議会に報告し、翌々月の本年4月から新しい岩手県がん対策推進計画の施行スタートという、大変な急ぎ足のスケジュールとなっております。

この計画は、これまでの9圏域(県北部は二戸と久慈、沿岸部は宮古と釜石と気仙、盛岡、岩手中部、胆江、両磐)を一気に4圏域減らして、県北部を盛岡に集約し①盛岡・久慈・二戸、沿岸部を盛岡に集約して②盛岡・気仙・釜石・宮古③岩手中部④胆江⑤両磐に再編するという大規模な計画です。この計画が行われると、今後県北部と沿岸部に住む方々は自分たちの圏域が盛岡医療圏に集約されて大きな変化を受けることになります。

このような大きな変更計画は、十分な時間をかけて地域住民の方たちの意見をしっかりと聞いた上で、きちんと合意を得ながら進めるべきであり、がん患者家族の会・盛岡かたくりの会と当会はこの件について話し合いを行い、県北部・沿岸部の患者さんやご家族の立場に立って、医療圏再編を丁寧に県民に説明し、特に大きな変化を被る県北部・沿岸部の患者さんやご家族には十分に思いを聞き取りニーズを把握しサポートに繋げて欲しい、という請願書を昨年12月4日に岩手県議会に提出しました。(次ページ参照)



請願書提出



2023年12月4日

岩手県議会議員 工藤 大輔 様

岩手ホスピスの会  
代表 川守田 裕司盛岡かたくりの会  
会長 下川原 良子

## 岩手県のがん対策の推進に関する請願

### (請願趣旨)

少子高齢化が加速し、労働力不足や労働者の高齢化など様々な課題が山積する中、限られた医療資源の下、岩手県の地域医療のために尽力されている関係各位に心より敬意を表する。

本県において、令和元年の死亡者の主な死因のうち、がんによる死亡者数は4,471人、総死亡者数17,826人に占める割合は25.1%となっており、4人に1人ががんで亡くなっている。また、昭和59年以降、がんは死亡原因の第1位となっている。一方、国全体で見ると、生涯で約2人に1人はがんにかかると推計されており、依然として、がんは県民の生命と健康にとって重要な課題となっている。

県では、平成20年3月に岩手県がん対策推進計画、平成26年に岩手県がん対策推進条例を策定した。県は、がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服を目指すことを実現するため、県民の心と体の健康につながる生活習慣病予防、がんとの共生社会に向けた取組など、がん対策を総合的かつ計画的に推進する中、現在、次期岩手県がん対策推進計画と次期岩手県保健医療計画の策定に向け、がん診療連携医療圏の設定が議論されている。

平成28年の国のとりまとめによると、本県のがん診療連携拠点病院数（人口10万対）は、1.3施設となっており、全国の3.1施設を下回っている。治る病気ならどこへでも行くが、治らない病気なのであれば、せめて生まれ育った地域や家族の下で最期を迎えたいとの声を多く聞く。医師や看護師等の医療従事者の不足や地域偏在等の事情があるが、急性期から在宅まで切れ目のない地域医療の充実や、1人でも多くのがん患者が痛みから解放されて少しでもその人らしく過ごせるよう更なる緩和ケアの充実など、地域のニーズや患者の特性、患者・家族の声にもしっかり耳を傾け、県北部、県沿岸部、県中央部、県南部など広い岩手県に生きる各地域の方々の思いに寄り添った議論を進めて頂きたい。

平成28年には、がん対策推進基本法が改正され、新たに法の理念にがん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、がん患者が、その置かれている状況に応じ、適切ながん医療のみならず、福祉的支援、教育的支援その他必要な支援を受けることができるようにするとともに、がん患者に対する国民の理解が深められ、がん患者が円滑な社会生活を営むことができる社会環境の整備が図られることが追加された。



県立久慈病院



県立釜石病院



県立大船渡病院

については、本県のがん対策の推進に関し、下記の事項について請願する。

### (請願事項)

- 1 がん診療連携医療圏の設定に関わらず、がん患者とその家族が可能な限り、質の高い生活を送ることができ、また、住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう、引き続き必要な支援を受けることができる環境整備の充実を図ること。
- 2 診断から治療、在宅での緩和ケア医療から看取りなど様々な場面で切れ目のない医療が提供され、がん患者がいつでも、どこに居ても、尊厳を持って安心して生活し、自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現を図ること。
- 3 県北部、沿岸部のがん患者が高度専門医療を受けるためには、盛岡市方面のがん診療連携拠点病院に通院しなければならないことから、交通費補助等の負担軽減策を検討すること。



2023年12月12日

「岩手県のがん対策の推進に関する請願」は、岩手県議会本会議において全会一致で採択されました。

12月4日 請願書提出(岩手県議会議長室)

## 「岩手県北部・沿岸部の現状について」

2023年9月、11月に岩手県がん対策推進協議会が2度とも非公開で開催され、医療圏再編計画が県民への事前説明がないままに提示されたとき、私たちは県北部沿岸部の方たちの思いを言葉にしなければならぬと思いました。岩手県議会議員の吉田敬子さんに相談しアドバイスを受け、急遽請願書提出に向け準備を始めました。

現状を把握するため、当会会員で、県北部の久慈病院や久慈地域で患者さんのサポート活動をしている大橋泰子さん、盛岡市から沿岸大船渡市の実家に住むお母様のお世話に通っていた馬場恵さんのお二人から、住民の高齢化と医師不足、診療科の減少など県北部沿岸部の深刻な現状をお聞きしながら請願書を作成しました。

大橋さん：「久慈地域では、県立久慈病院が基幹病院ですが、病院各科ともいつも大変混みあっており、常勤医・専門医が不在のため、手術やアクシデントの場合、ヘリコプターで盛岡や八戸の病院に運ばれることがよくあります。呼吸器科や血液内科も同様の状況で、入院の場合は八戸が盛岡の病院へ。県内どこに住んでいようとも等しい医療を、が合言葉だった過去の岩手から、それ以前の状態に戻っているようで大変寂しく思います。」

馬場さん：「沿岸部では、ステージが進んだがんの場合、医大か県立中央病院等に紹介されるケースがほとんど。患者も少しでも良い医療、最先端の医療をと願うので、盛岡の病院の紹介を希望するケースが多いし、多少負担になっても手術や抗がん剤治療のために、泊りがけで盛岡に通院する。母もホテルに宿泊しながら医大に通院していました。でも高齢になり車の運転も難しくなれば、地元の病院にお世話になるしかない。そもそも地元の拠点病院までがとても遠い人が多い。通院のための足の確保や、盛岡の医大や県立中央病院などの拠点病院と地元の病院との連携強化は欠かせないと思う。こうした話を直に情報交換できると良い。患者や家族の実態を踏まえて対策を練って欲しい。」

沢山の方々のご助力により、請願は全会一致で採択されました。更に多くの方々にこの問題を知っていただき、県内のどこに住んでいようとも、がん患者さんが可能な限り等しく医療を受けることができるように、活動を継続したいと考えております。皆様のご協力をお願い致します。

## がん授業『がん患者の話を聞き、自らの健康や命の大切さに気付く』

岩手県教育委員会は第3期がん対策推進基本計画に則り、がん教育・がんに関する知識の普及啓発の一環として、子供たちががん患者団体のがん経験者の話を聞き、自らの健康や命の大切さに気付くことをねらいとして、令和3年度に県内の学校でがんの授業を開催しました。

その活動を引き継ぎ、盛岡市山王小学校ではがんの授業を開催し、当会伊藤ヨシ子副代表が自らのがん体験について講演しました。以下はそのレポートです。

2023年11月28日午後、盛岡市立山王小学校5年生の特別学級活動に講師として、今年も子どもたちに話す機会をいただきました。

1学年18名の教室で、初めに文部科学省制作の『がん博士』という映像を見て、がんになる要因や検診の必要性など学習。



山王小学校5年生の授業で講演

担任教師による事前アンケートは、がんという言葉を知っているイメージ、がんは治る病気と思うか、がん患者と話したことがあるかという設問が書かれていました。

子どもたちは、重い病気、死に至る、免疫力の低い年寄りがかかる、たばこを吸うとなり易い、治らない殆どが亡くなる、死の確率が高い等々、それぞれの思いが述べられました。

子どもたちの思いを聞いたのち、がん患者に対する接し方や、どんなことが支えになるかを中心に、私自身や家族を看取った体験などを話しましたが、子どもたちはみんな真剣に聞いてくれました。

事後レポートには、「がん学習によりがんに対する考え方が変わった」との答えが14名に。「がんは大変な病気だが、がんになっても頑張って元気に生活している人がいることが分かった。がんは早期発見で治ることも分かった。」

家族に何を伝えたいかという項目には、「おじいちゃんもがんなのでこの一言言ってあげたい。苦しいと思うけど私も頑張るから一緒に頑張ろう」ママにも「がんは苦しいけどがんを3つも持っている人も頑張って回復しているから」と。「父母は両方ともタバコを吸っていて、がん検診に一度も行ってない、がんの大変さを伝え検診に行くよう言いたい。」

ゲスト教師の私には、「がんを3つも持っているのに明るくてすごい、その優しさを他のがんの人にも分けてあげてください。」「がんになっても出来ることがあると分かった。私も誰かを支えられたらと思う。」「伊藤さんは僕が生きている年月より長くがん

と向き合っていると知りすごいと思った。これからはお体に気を付けて頑張ってください。」

がん学習に出向き、私も子どもたちからすてきな応援を貰った温かな午後でした。



がんの授業で学ぶ子どもたち

## 盛岡かたくりの会（がん患者と家族・支援者の会）の語り合いの会に参加

2023年12月8日、盛岡市内で開かれた盛岡かたくりの会（がん患者と家族・支援者の会）の語り合いの会に当会より2名参加しました。



盛岡かたくりの会の「語り合いの会」に参加

緩和ケア認定看護師で「なんでも医療相談係（さち）」を開いている熊谷幸子さんをゲストに迎え、男性4名女性4名が参加して、自身のがん体験や人とのコミュニケーションについてなど、それぞれ

の思いを自由に語り、それに対して熊谷さんをはじめとして、他の皆さんが優しく様々なアドバイスをしてくれて、心がとても温くなるひと時を過ごすことができました。つらいことや嬉しいことがあったらぜひ語り合いの会に行ってお話すると良いですよ。きっと心が癒されます！

盛岡かたくりの会（がん患者と家族・支援者の会）

事務局 電話 019-672-1305

語り合いの会は盛岡市プラザおでって5階・女性センター生活アトリエ等で月一回程度開催しています。（電話確認要）



## タオル帽子クリスマスプレゼント



今年も全国のがん診療連携拠点病院等にタオル帽子総数 2100 個を発送しました。がん治療の主流である「抗がん剤」は、多くのがん患者さんの治療効果をあげていますが、抗がん剤の種類、投与方法によっては、吐き気・虚脱感・「脱毛」の副作用が予想されます。お送りしたタオル帽子で患者さんが少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。

### 送付先病院一覧

2023年12月（1件50個程度）病院28件 総数2100個

**岩手県** 岩手県立中部病院 岩手県立胆沢病院 岩手医科大学附属病院 孝仁病院 盛岡友愛病院 **群馬県** 桐生厚生総合病院 **千葉県** 船橋医療センター **埼玉県** 戸田中央総合病院 **東京都** 東京女子医科大学足立医療センター **愛知県** 名古屋医療センター 名古屋第一病院 豊橋市民病院 半田市立病院 **三重県** 鈴鹿中央病院 **富山県** 富山大学病院 **石川県** 金沢医科大学病院 **岐阜県** 岐阜県総合医療センター 大垣市民病院 **京都府** 京都大学医学部附属病院 **広島県** 広島大学病院 広島市民病院 福山市民病院 **愛媛県** 愛媛県立中央病院 **徳島県** 徳島県立中央病院 **大分県** 大分大学病院 **熊本県** 熊本労災病院 **鹿児島県** 鹿児島市立病院 **沖縄県** 那覇市民病院



タオル帽子発送作業

## 盛岡二高タオル帽子講習会

12月15日盛岡第二高等学校でタオル帽子作製講習会が開催され、同校家庭クラブの生徒計40人が、抗がん剤で脱毛した患者さんを支援するタオル帽子作りを体験し、がん患者支援への理解を深めました。同校での作成講習会は今回で7回目となり、当会のタオル帽子作りボランティア6名が指導に当たりました。同校生が作成したタオル帽子は、ボランティアの方たちの手直しの後、抗がん剤の副作用で脱毛に悩む患者さんに届けられます。



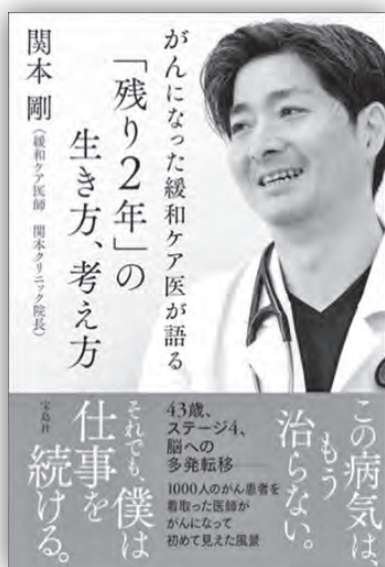
### 書籍紹介

## がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方

関本剛 (著) (宝島 SUGOI 文庫) 文庫 - 2022/1/8

NHKでも紹介！人はなぜ生きるのか——。緩和ケア医として多くの終末期患者たちを看取ってきた40代の医師に下された「末期がん」の宣告。患者たちと立場をともしたとき、医師は初めて命の何たるかを理解した。余命を意識しながら仕事と向き合い続ける医師が語った、「運命」の受容と抵抗のノンフィクション、待望の文庫化！（Amazon）

彼自身の母も医師であり、本人、家族がどんな風に命と向き合い、寄り添っていったのかが伝わってくる一冊でした。（蛇口真理子）



## 医師の働き方改革について

(医療・介護の制度・業界動向まるわかりガイド・日経ヘルスケア 2023/4 より抜粋)

医師の働き方改革のスタートが間近に迫っています。勤務医の方々にとって切実な問題ですが、私たち患者家族にとっても医療サービス上、大変大きな変化が来ると考えられます。

### Point

- 2024年4月から医師にも時間外労働の上限規制が適用される
- 医師の時間外労働の上限規制はA,B,Cの3つの水準に区分。時間外労働の上限と追加的健康確保措置を組み合わせた規制を設定して医師の休息を確保

原則全ての勤務医はA水準（「月100時間未満、年960時間以下」）、特例的な対応が認められる場合はB,C水準（「月100時間未満、年1860時間以下」）の時間外労働規制に従うことになる。また、「連続勤務時間制限28時間」「勤務間インターバル9時間の確保」や、「月100時間未満」を超えた場合は面接指導の実施が求められる。



# 岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2023年10月～2023年12月)



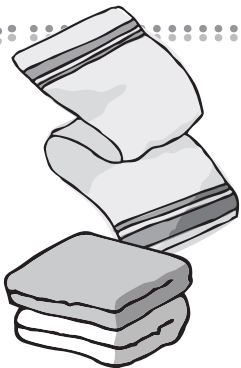
当会のタオル帽子を受け取ったがん診療連携拠点病院から寄せられたメッセージをご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで113060個に上っています。今日もどこかでタオル帽子の活動に思いを寄せている方がいます。帽子を作るボランティアの皆さんに深くお礼申し上げます。



盛岡二高タオル帽子講習会

\*とてもステキな帽子をありがとうございます。不安ばかりで前向きにならず、泣いてばかりの日もありました。気持ちのこもった帽子を見て、今は頑張ろうと負けないぞ!と気持ちに変わりました。元気になったら今度は私がたくさんの人に恩返しをして行けたらいいなと思っています。勇気と元気をありがとうございます。これから寒くなりますので、体に気を付けて下さいね。

\*京都大学附属病院にてタオル帽子をいただきました。暑くなってきて家事をしていると自分で用意していたケア帽子がすぐに汗だくになってしまい不快でした。洗い替えにとボランティアさんの手作り帽子を頂いたのですが、汗を良く吸ってくれて締め付け感もなく被り心地がとても良いです。これからも私のように帽子を必要としている人に作り続けて下さい。救われる方が沢山いらっしゃると思います。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。(京都府)



## フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひがあります。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルがとても不足しております。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひご協力をお願いいたします。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

## タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：[hospice@eins.rnac.ne.jp](mailto:hospice@eins.rnac.ne.jp)

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

## これからのタオル帽子講習会・サロン日程

2月10日：タオル帽子講習会・サロン

3月9日：タオル帽子講習会・サロン

4月13日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター

●開催時間：午後1時30分から

●問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

# 岩手県内各ホスピス現況

(岩手ホスピスの会調べ 詳細は)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 (代表) 医療福祉相談室 (直通) 019-656-2808	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222 (代表) 医療相談室 緩和ケア担当 内線 185
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,300 円	1 日 5,500 円・11,000 円	1 日 5,500 円
看 護 師 数	16 名 + 看護補助者 1 名	21 名 + 看護補助者 2 名	16 名 + 看護補助者 4 名
ホ ス ピ ス 医	米山幸宏	畠山元、旭博史	藤井祐次
看 護 師 長	栗木真由美	前澤江里	上山志鈴江
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室 (地域連携室) にご 相談ください。 月～土曜 8:30～17:15	緩和ケア相談室へお問い合わせ ください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30 (第 2・4 土曜は不可)
審 査 日	随時	随時	随時
ホ ス ピ ス 入 院 平 均 待 機 者 数	0～3 名	0～3 名	0～2 名
ホ ス ピ ス 入 院 平 均 待 機 期 間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 7 日	状況により数日～1 週間 (患者さんの 意向を確認後、一般病棟で対応する 場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩 和 ケ ア 外 来	診察日: 月～金 (第 2・3・4 木) 9:00～12:30 13:30～17:00 要予約 土 9:00～12:30 要予約 担当医: 米山幸宏	診察日: 火・水・木 14:30～16:00 要予約 担当医: 畠山元、旭博史	診察日: 水・木・金 (AM・PM) 要予約 担当医: 藤井祐次
ホ ス ピ ス ボ ラ ン テ ィ ア の 人 数 と 活 動	再開検討中	病院ボランティア登録者 13 名。 うち 12 名がホスピスで活動。 ※月 2 回程度で活動再開	年 1 回程度イベント時活動 ※現在、コロナの影響のため 休止中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称: ひだまりの会 連絡先: 緩和ケア病棟 栗木 再開検討中	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催 ※昨年、会報を作成し配布。 現在、再開検討中	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア病 棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日数によって 3 段階での算定 です。	定額制。入院期間により 3 段階。患 者さんの自己負担額は加入している 保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他に食 事代別途徴収。
ペ ッ ト の 同 伴	面会可能。宿泊不可。要相談。	面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と 携 帯 連 携	必要時可能	硬膜外ブロックなどを行う場合など に連携あり。	なし



## (2023年11月現在)

各病院に直接お問合せ下さい)

岩手医科大学附属病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
紫波郡矢巾町医大通2丁目1番1号	一関市狐禅寺字大平17番地	北上市村崎野17地割10番地	奥州市水沢羽田町字水無沢495-2
019-613-7111(代表) 緩和ケアセンター 内線3223	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
25床	24床(個室20、2床室2)	24床(個室18、2床室3)	20床(全室個室)
無料個室17床 有料個室8床	無料17床 有料7床	有料個室10床、無料室14床	無料20室
1日5,500～25,300円	1日3,190～6,490円	1日3,300～13,420円	無料
25名+看護補助者1名	18名+看護補助者1名	20名+補助3名	17名+ケースワーカー1名+看護補助者5名
木村祐輔、鴻巣正史、中村清華	平野拓司	星野彰、綿引奈苗、齊藤秀典	及川司
竹内可愛	小野寺美智子	吉川朗	小林洋子
緩和ケアセンターに 相談ください。 019-613-7111 内線3223 月～金曜 8:30～17:00	0191-23-3452(入院相談等) がん相談支援センター 相談時間:平日8:30～17:15	0197-71-1511(入院相談他) がん相談支援室 相談時間:平日9:00～17:00	入院相談(担当:ケースワーカー) 後面談 入退院検討会(医師、薬剤師、 栄養士、看護師、理学療法士 で構成)
随時	随時	随時	随時(その後ベッドが空くまで待機)
0～3名	0	1～2名	0
状況により数日～1週間程度	数日(緊急対応可)	待機期間は同院一般病棟や 近隣の病院、連携のとれている 訪問診療で対応	0
盛岡市周辺の方が多い	一関市周辺や宮城県北の方が ほとんど	花巻北上周辺の方が8割以上 その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
診察日:月～金、要予約 担当医:木村祐輔、鴻巣正史	診察日:月～金、要予約 担当医:平野拓司	診察日:月～金の午前、 要予約 担当医:星野彰	診察日:水(午前中) 要予約 担当医:及川司
実績無し 活動検討中	ボランティアコーディネーター 1名、ボランティア12名 活動:がん患者・家族サロン「こ ころば」(R5.12月より再開予定)	登録者39名。 活動内容:お茶会・歌っこの会・ アロマ・生け花・季節のイベント 企画(コロナ禍にて、現在活動 は生け花とイベントの一部のみ)	現在登録者5名で活動中。 ホスピスボランティアを 随時募集中
設置未定	偲ぶ会(連絡先:緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催 (※コロナ禍のためR2～未開催)	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ 年1回開催(令和2年度～中止)	<small>しちせき</small> 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなり になった方のご遺族の方のみ これまでに7回開催(2020～中止)
定額制 (診療報酬上の緩和ケア病棟 入院料に準じ入院期間により 3段階) 保険適応	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制(入院期間により3段階) ただし、定額に含まれない加算 や有料個室の料金等は別途追 加になります。	定額制 3段階になります。
面会のみ可能。宿泊不可。 条件有。要申請	要申請。ケージに入る小型犬が 望ましい。大型犬は要相談。	面会可能。宿泊可	面会可能11時～16時 (面会時間を決めて可) 宿泊要相談
必要時可能	なし	院内ペインクリニックと連携	なし

# \*\*\*\*\* 岩手ホスピスの会活動日誌 \*\*\*\*\*

2023年10月～12月

10月9日	盛岡かたくりの会会長と面談	(岩手町、2名)
10月15日	第10回タオル帽子サロン・講習会	(盛岡市総合福祉センター、16名)
10月21日	第10回役員会～ホスピス通信発送作業	(盛岡市総合福祉センター、10名)
11月11日	第11回タオル帽子サロン・講習会	(盛岡市総合福祉センター、18名)
11月12日	第11回役員会	(盛岡市総合福祉センター、9名)
11月16日	第33回岩手県がん対策推進協議会	(岩手県庁県議会棟大会議室、1名)
11月18日	タオル帽子倉庫作業	(盛岡市タオル帽子倉庫、4名)
11月21日	盛岡市山王小学校がんの授業に講師として参加	(同校、1名)
11月22日	東京海上日動あんしん生命タオル帽子贈呈式 請願書提出打ち合わせ	(盛岡市総合福祉センター、12名) (盛岡市内、3名)
11月25日	請願書(案)提出	(岩手県議会事務局、1名)
11月28日	県議会各会派回り	(岩手県議会、3名)
12月4日	「岩手県のがん対策の推進に関する請願」を岩手県議会議長に提出	(岩手県議会、5名)
12月8日	盛岡かたくりの会(がん患者と家族・支援者の会)語り合いの会参加(プラザおでって、2名)	
12月9日	第12回役員会～タオル帽子サロン・講習会	(盛岡市総合福祉センター、28名)
12月12日	「岩手県のがん対策の推進に関する請願」が岩手県議会本会議において全会一致で採択	
12月14日	会報「岩手ホスピスの会通信」初稿提出	
12月15日	盛岡第二高等学校タオル帽子作製講習会	(同高、42名)

## 「岩手ホスピスの会」がんを語る会



開催日	毎月第2土曜日午後1時30分～4時(月により変更あり。要問合せ) 無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場(月により変更あり)
内容	がん全般・介護全般についてそれぞれの悩みを語り合い情報交換を行います。 どなたでもお気軽にご参加ください。
問合せ	<b>岩手ホスピスの会 090-2604-7918</b>

## あんしん生命様よりタオル帽子が寄贈されました

11月22日、東京海上日動あんしん生命様から当会に、同社社員の方たち等が手作りしたがん患者さんのためのタオル帽子1,000個とタオル535枚が寄贈され、同社の庵貴敏人事総務部長のあいさつの後、当会に目録が手渡されました。当会のタオル帽子活動に多大なるご支援をいただいているあんしん生命様に深く御礼を申し上げます。



あんしん生命の皆様と共に



## 岩手のがん相談支援センター

岩手県立釜石病院 医療社会事業士 川戸 美佳

県立釜石病院の1階会計窓口後方、医療相談室内に「がん相談支援センター」を設置しており、がんに関するご相談をお受けしています。

当院でがん療養中の方やご家族に限らず、当院に通院されていない、地域にお住まいの方や匿名相談にも応じております。ご相談の内容により専任のスタッフ（看護師、医療ソーシャルワーカー）が担当いたします。

### 【利用方法】

- ・来所相談：直接相談支援センターへお越し頂くか、医師や看護師等スタッフにお申し出ください。入院中で来室できない場合には、こちらから病室にもお伺いいたします。ご予約は不要ですが、スムーズなご相談のために電話予約をお勧めします。
- ・電話相談：代表電話にご連絡いただき、「がん相談」とお話しください。担当者に代わります。その際、看護師と電話希望の方、医療ソーシャルワーカーと電話希望の方はその旨をお話下さい。



がん情報・医療情報コーナー

### 【相談について】

ご相談は無料で、プライバシー・秘密は守られます。

相談内容が医師・看護師、地域の関係機関との情報共有を必要とする場合には、相談者のご了承を頂いた上で対応します。

### 【がん情報・医療情報コーナー】

1階正面ホールにて、がんに関する情報を集めた書籍や資料をご用意しております。

パソコンで病気を調べることもできます。お気軽にご利用ください。

病気のこと、治療のこと、生活のこと、仕事のこと、お金のこと等、心配事や不安が少しでも解決・軽減できるよう、お話を伺い一緒に考えましょう。どんな些細なことでも構いません。遠慮なくご相談ください。

### お問い合わせ先

岩手県立釜石病院 がん相談支援センター

住所：岩手県釜石市甲子町第10地割483-6 電話：0193-25-2011（代表）

受付時間：月～金曜日（祝日を除く）9：00～17：00

## 新年度継続とご支援のお願い

年会費は一口2,000円です。

皆様からのあたたかなご寄付、ご支援をいつも本当にありがとうございます。

岩手ホスピスの会が、がん患者さんやご家族に寄り添い活動できる支えは、皆様のご支援によるものです。今後も安定した活動を継続するため、ご理解とご支援をお願いいたします。

2024年度会費（2024年1月～2024年12月分）を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上お振込をお願いいたします。ご住所の変更があった方はご連絡をお願いします。

年会費：2,000円（複数口可） 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

# がん診療環境充実を

県議会12月定例会へ  
の請願・陳情の締め切  
り日である4日、さま  
ざまな団体から請願の  
提出が相次いだ。受理  
した請願は、7日の5  
常任委員会で審査され  
る。

ともにがん患者団体  
である岩手ホスピスの  
会（川守田裕司代表）

と盛岡かたくりの会  
（下川原良子代表）は、  
本県のがん対策におい  
て、がん診療連携医療  
圏の設定にかかわら  
ず、がん患者とその家  
族が可能な限りの質の高  
い生活を送ることがで  
き、住み慣れた家庭や  
地域での療養や生活を  
選択できるよう、引き  
こに居ても、尊厳をも  
つて生活し、自分らし  
く生きる（こと）のできる  
地域共生社会の実現▽  
県北部、沿岸部のがん  
患者が高度専門医療を  
受けるためには、盛岡  
市方面のがん診療連携  
拠点病院に通院しなけ  
ればならないことから  
交通費補助等の負担軽  
減策の検討。

川守田代表は「今後  
は、県内どこに住んで  
いようとも、医療体制  
は今後逼迫（ひっぱく）  
する可能性はある」と  
して、工藤大輔議長に  
「いま一度行政、医療、  
県民がともに考える必  
要がある」と訴えた。



がん対策の充実を求める請願を提出する川守田代表（左から3人目）ら

盛岡タイムス 2023年12月5日掲載

## がん患者へ真心タオル帽子

岩手ホスピスの会 盛岡二高で製作講習



岩手ホスピスの会ボランティアの手ほどきを受けながらタオル帽子を作る生徒

### 盛岡

岩手ホスピス  
の会（川守田裕  
司代表）は15日、盛岡市上  
橋町の盛岡二高（鈴木広樹校  
長 生徒546人）で、抗がん  
剤治療で脱毛に悩む患者に  
贈るタオル帽子作りの講習会  
を開いた。

同校家庭クラブのメンバー  
と生徒有志の34人が参加。同  
会ボランティアの手ほどきを  
受けながら、フェースタオル  
を一針ずつ丁寧に縫い上げ、  
思いを込めた色とりどりのタ  
オル帽子が完成した。

2年の児玉希香さんは「抗  
がん剤治療の患者さんを支  
援する活動に、高校生の私た  
ちも貢献できて誇らしい。帽  
子をかぶって笑顔になって  
もらえたらうれしい」と望ん  
だ。

同会は2008年からタオ  
ル帽子を作製し、全国の病院  
に配布。同校の講習会は7回  
目で、今回作った帽子は岩手  
医科大学病院や県立中部病院  
などに贈る。

岩手日報 2023年12月19日掲載

## 内野株式会社様より ご支援をいただきました

令和4年度も内野株式会社様からタオル帽子やタオル等多数お送りいただきました。15年前より変わらぬご支援を頂いている内野様に深く感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



お送りいただいたタオル帽子とタオルの仕分け作業